

行政視察報告書

委員会名	教育民生委員会
派遣委員	委員長 芝田 英範 副委員長 平川 幸司 委員 伊藤 淳 委員 広田 精治 委員 匹田 郁 委員 吉岡 勲
日程	令和7年10月22日(水)
視察先	群馬県安中市
調査項目	高齢者支援について (介護予防のためのフレイル予防事業、安中市安心見守りシール交付事業)

1. 調査目的

安中市では、高齢者支援の取組の一つとして、介護予防のためのフレイル予防事業で電力使用パターンを収集・AI分析し、フレイルの状態に近いかなどを判断し、その結果を本人に通知するフレイル予防対策に取り組んでいます。

また、認知症に関する取組である安心見守りシール交付事業では、認知症を抱える高齢者が行方不明になった際に、地域の住民や関係機関が協力して行方不明者の情報を共有し、地域全体で迅速かつ効果的に情報を共有し捜索の支援を行っています。

今回、安中市のこのような事業の取組と成果などについて教授いただき、白杵市における高齢者支援の取組がより充実したものになることを目的に調査・研究を行いました。

2. 調査内容

(1) 視察先の概要

安中市は、平成18年3月18日に旧安中市と松井田町が新設合併して誕生した市です。群馬県の西部に位置し、西は長野県軽井沢町と接しています。

古くは東山道、近世には中山道の宿場、関所がおかれるなど交通の要衝であり、現在も市内に新幹線駅1駅、高速道路IC2ヵ所と立地条件に恵まれ、交通・輸送の要衝として栄えています。

現在、安中市では、磯部温泉や旧碓氷峠など恵まれた環境を活かした観光事業の発展及び交通の便を利点とした商・工業の充実などのために、様々な施策が進められています。

(2) 調査結果

安中市の単身高齢者は、約5,400人で、その内元気な方が3,000人程度と推計されています。健康な状態と要介護の中間の状態、加齢により心身が衰弱した状態であるフレイルの時点で生活習慣を見直すと、健康な状態に戻れるということがあるため、介護予防教室やサロン活動に積極的に取り組んでいます。教室やサロン活動の参加者は、介護予防の意識が高い方が多く、また、参加者が固定化している実情があったとのことで、対象者の負担が少なく、日常生活の状態を客観的に把握し説明ができるeフレイルナビ（電力データを用いたフレイル予防サービス）の導入に至ったとのことでした。

視察時点では、登録者数81件のうち、AIによるフレイル検知が4件あり、職員の訪問によりケガや認知症が原因であることが判明し、リハビリや介護認定に至ったものや、生活リズムの変化が確認されたため、状態の変化を継続して確認することにつながったものなど、対象者の状態の変化に対し、早期に介入できる取組を行っていました。

認知症高齢者等見守りシール交付事業は、視察時点では登録者の数が多くないこともあり、実際に行方不明事案の発生等はなく活用事例はないとのことでしたが、GPS機能を搭載した機器を導入するよりも費用負担が少ないなど、家族や支援者からみても取り組みやすい事業でした。

3. 委員会の所感

電力データを用いたフレイル予防サービスについては、電力の使用状況からフレイルの状態であると検知すると、職員が訪問し状態を確認するまでの一連の流れが確立されており、登録者の行動制約や費用負担が無いため、効率・効果的な取組であると考えます。

本市で同様の取組を行う場合、フレイル状態であると判定した後は、介護予防・日常生活支援総合事業（元気になる事業）へ繋ぐこともできるため、より取組の効果が期待できる事業であると考えます。

認知症高齢者等見守りシール交付事業は、行方不明者を発見した際に、本人と話ができなくても、二次元コードを読み込むだけで迅速に支援者に連絡ができる点や、保護した方には、本人が安心する声掛けや注意点等が伝わるようになっていく点が、保護した方の負担が少なく、よい取組だと感じました。シールにGPS機能はないため、行方不明者を発見するものではありませんが、衣類や靴、杖など複数貼付できるため、本人が持ち出す可能性があるものに貼付することで、行方不明になった際に活用できる可能性があると感じました。

また、財政的な負担も大きくないため、本市の認知症高齢者等SOSネットワーク登録者に対する見守り支援の手段の一つとして導入することも可能ではないかと感じました。

4. 視察状況

